

ふりがな 氏名	ながかわ みさと	都道府県	東京都	
	長川 美里			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・ One Young World Japan (南アフリカ大会アンバサダー) ・ 株式会社グロービス (コンサルタント) 			
私のESD活動	東アジアの次世代が、「近くて遠い (地理的に近く、心理的に遠い)」と言わない社会を目指す			

活動の概要

東アジアの次世代の若者が、「近くて、遠い」と言わない社会を作りたい。そのために、東アジアにおける、次世代の人材育成に携わりたい。

戦後 70 年以上たち、戦争を知らない私たち世代だからこそ共感できる価値観と、未来への想いを、共に享受できる社会にしたいと思った。情報があふれる社会だからこそ、それぞれが感じる平和と、まっすぐな視点を養成する土壌を東アジアで共に作る必要がある、という問題意識からの活動だ。

具体的なアクションは、日本国内に留まらない、いくつかの具体的な外への発信活動を通して行っている。大きなものとしては、2016 年 1 月に東京大学で開催したシンポジウムと、同年 8 月に渡韓して行った啓発活動があげられる。前者は、私自身の周りで東アジアの和解に関する活動を、各々の魅力的な想いを通しおこなっている三名の方にお声がけし、東京大学公共政策大学院の協力をあおぎ、開催した公開シンポジウムである。当日は100名を越える学生・社会人を動員し、私自身も主催者兼スピーカーとして登壇した。様々な想いを持つ若者が一同にあつまり、想いを受け取り、発信する場としての、役割を果たせたと感じている。また、後者の活動は、韓国で行った。東アジアの和解はアジアの若者が手をとって行う必要がある。私は韓国国内ユネスコ委員会の一つのユース・フォーラムで、ファシリテーターとして参加をし、自らが行ってきた東アジアに関する活動の経験をもとに、参加者と運営をつなぐ役割を担った。

○「UmeeT 東大発オンラインメディア 活動紹介記事」 <http://todai-umeet.com/article/6501/>

○「次世代に生きる“わたし”たちにとっての東アジアと相互理解」 <https://atnd.org/events/73457>

今後の活動や協働への展望

私がかかっている誰にも負けないもの、それは、「想い」だ。大学二年時に「近くて遠い」という言葉に出会い、その後大学院への進学(東京大学1年、北京大学1年で双方修了、ソウル大学院半年留学)を通し、自らの発信活動を、周りの人々に支えられながら行ってきた。仕事では人材育成に携わり、社外では国連協会主催のユース・フォーラム合宿での OG としての講演や、リーダーシップセミナーでの登壇など、私にはまだまだ背伸びとなってしまう機会を頂いた。仕事とその他の活動をする中で、私は今、「どのように、何を、継続していくべきか、」という壁と、「どんな新しい可能性があるだろうか」という問いにぶつかっている。だからこそ、この経験が必要だ。ESD で今回出会う人々は、様々な背景や才能を持っているだろう。私であればそれは東アジアへの情熱だ。ESD のコミュニティがそれぞれの情熱を通し、お互いヒントを得ながら、そして時に助け合いながら、活動をそれぞれのコミュニティで行っていくことで、社会のあらゆる課題をカバーできると感じている。すぐには形にできなくとも、想いを持ち考え続け、常に仲間と議論できるコミュニティであればと思う。お互いに対し、尊敬の気持ちを持ち続け、切磋琢磨できる場所にしたい。

私はこれからも東アジアの次世代へどう自分の経験を還元できるのか考え、行動する活動を続けたい。その上で、一緒に相談し、何かを生み出せる ESD の一員でありたい。